



## 説教要旨 「譲っては成り立たないもの」

ルカによる福音書 14章 25～35節

「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、わたしの弟子ではありえない。」(26節)

このみ言葉を文字通りに受け止めたならば、おそらく誰もクリスチャンにはなれないし、すでにクリスチャンである人であっても、自分がイエス様の弟子足りえないことを痛感することでしょう。このみ言葉に躓いてしまいそうな私たちのために、イエス様は二つのたとえを語ってくださいました。塔を建てようとする際には完成させるための費用があるかどうかをじっくり計算してから実行に移すこと、また他国と戦争する場合は自国の軍備と他国の軍備とを比較して勝てるかどうか腰をすえて考えてから対処するだろう、と。

それは、イエス様に従って歩もうとするとき、何を最も大切なこととして選び取って行くか、ということです。イエス様に従っていくために、家族とのつながりを断ち、命や持ち物を捨てる必要があるということではなく、イエス様の価値観や生き方を見据え、それを最も大切なこととして選びとっていくことが求められているということです。

私たちは日々の生活の中で、常に選択を迫られます。多様な選択肢がある中で、最も大切にしなければならないことは何かという視点で物事を選んでいくこと、つまり神様が自分に何を望んでおられるのかを尋ね求める姿勢が重要なのだと思います。それは、イエス様が私たちに示してくださった神の愛を見つめることです。小さい者、弱く乏しい者、蔑まれ孤独な者たちと共に食卓を囲み、共に歩まれたイエス様の姿に、自らの歩むべき道を見出して行くことこそが、自分の十字架を背負って主に従うことではないでしょうか。その歩みの中でこそ、自分の命を、家族を、そして隣人をも、本当に愛し、大切にすることができるとは。そのように、イエス様の弟子として歩むならば、たとえ自分一人では負いきれない軛であっても、イエス様がその重荷を共に担って歩んで下さるのです。



(2019・10・20 説教者：稲垣真実)